

施設と子ども

〈静岡市〉

—賤機幼稚園—

菅沼義子

施設と子ども

「白い蝶々みたいなお花が咲いた」という
れしそうな子どもたちの声にさそわれて、
のぞいた庭の小さなお花畠には、春になっ
て間もない、二月なつかの冷たい風に吹か
ながら、元気に白いパンジーが咲いてい
ました。

去年の七月までは、園舎がここに建って
いて、引越し後の庭の敷地のとき、このあた
りをお花畠にと話し合って、秋も終りに近
く小さな種子をまいたものでした。

今から五十年の昔、幼稚園がまだめずら
しく思われた頃、この地方の婦人と子ども
の教育を目立てに、尊い教育愛と祈りをも
つて、カナダの婦人宣教師團により創立さ
れたものがこの園の誕生でございました。
その当時を物語る古い写真等を見ます

と、園の四方は田圃にかこまれて見わたす
限り家もなく、背には賤機山を、目の前に
は安部川が流れ、大自然にも恵まれた園

舎であったようでござります。今では静岡
市も拡張されてこのあたりも商家や住宅の
立ち並ぶところとなり、園舎への日あたり
も当然制限されるようになりました。

この園も戦災にあって旧い園舎と、昔の
幼稚園を思い出すに足る古い保育用品が失
われたことは、まことに惜しいことでござ
いました。母の会の協力を得て昭和二十二
年復興いたしましたが、その当時は建築資
材が乏しく、古い土台が残されたのを幸い
に、そのまま、園舎を建てました。

焼野原と化した周囲は、創立当時を思わ
せるほどひろびろとしていましたが、戦前
にも増して家並みの建ちならんだこの頃で
は、お庭にも保育室にもよく日が当るよう
に園舎を移したいという願いが切でござ
いました。

幸いに後援会が一昨年から誕生し母の会
とともに協力して下さり、いよいよ、園舎
を移すことに決定したのが去年の六月で、

八月のお休み中に工事をすることに定まつたときのうれしさは、これで長い間のなやみが解決されるのだという、よろこびでいっぱいございました。

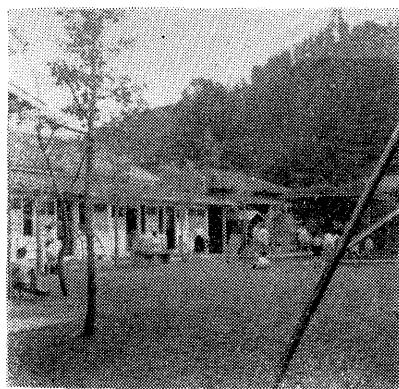
施設についての理想をいったら、私どもの園はとてもほど遠い感じがいたしますが、広い保育室と、園庭にも園舎にも日がよく当るようになると、そこに重点をおいての移転改築でござりますので、見てみると

もう少しよく考えて、あれもこれもと思ひますが、第一の願いが叶えられたことにただ感謝いたしております。
今年の冬はことにお天気つきで、庭いっぱいに日が当たり、うれしそうにあそぶ子どもたちの姿を見るにつけ、ああよかつたと安心するばかりでござります。

全国的に子どもの多かった、昭和二十七、八年頃はこの園もせまいところで、ずい分無理のある保育をせねばならず、毎日子どもの帰ったあと詫びたいような氣もちでいっぱいでした。

子どもの数も少しずつ少なくなり、施設もだんだん多くなって来ましたので、これからが本当に幼稚園の働きができるのではないかという気がいたします。

今度文部省から示された、設置基準もこれからは守りやすくなつたように思えてうれしいことだと思います。



幼稚園であそぶ子どもの年齢では、何でも自分で工夫して、何でも自分でやってみたいという欲求のさかんなときです。広い保育室で、適当な人数の子どもが、そのとき必要な材料で、自由に自分のつくりたいものを創ることができたら、子どもはどんなにのびのびと満足して育っていくことでしょう。

大人の世界でしているすべてのことが、子どもには何でも物めずらしく、自分にできそうに思えてやってみたいのです。大人は何でもしたいと思えばできるのに、子どもの世界からは何でも取り去られているのではないかでしょうか。あれもやってみたのではないでしょうか。あれもやってみたい、これもというように子どもは大人にうつたえているのです。そして子どもはさせれば子どもなりに何でもいたします。しかも大人がびっくりする位新鮮な考え方でたのしく精いっぱいにしています。それを心なしに子どもからその良い機会を取り去つたらもう子どもにそのよい機会はかえつて来



の計画を活発に表現している姿こそ尊く、これこそ見逃してはならない診断の場であると思います。よくせまいからそして多勢の子どもだから何もできないといいます。いざいざが多くてといいます。広い部屋で小人数をあつかっていても子ども同志は常に何かといざいざが多いものです。それさえものびるためにぜひ必要ないいざあつて、むしろないことが困ることだと思いません。しかし欲求がみたされないためのいよいよであつたら、それこそほっておけないことです。

幼稚園の教育要領をひもどいてみると、そのことが第一に記されています。すなわち子どもの成長発達の段階においては、くりかえすことがない。そのときその場で教育的に、適切な保育することが要求されております。

何をしてもいいのだという、安心感をもつて子どもが自由に、自分の考え方、自分

をとるのでなかつたら、充分な効果を見ることができないでしょう。たとえ施設とう環境に足りない点があつても、そこに働く先生方が、良い環境を作ることができたら、子どもは充分に満足することができると思います。

私たちはずつと毎日の働きに馴れることなく、常に新鮮な気持ちで、子どもを見ることができて、子どもが充分満足していきいきと、表現活動をしているかどうか、またそれに伴う適切な材料が与えられているかどうかを知り、思う存分に幼稚園でのあそびをさせてやり、つぎの段階に少しの無理もなくすすむことができるよう、良い手助けを与えることができたらほんとうにうれしいと、いつも考えています。

も、そこに働く先生が、今子どもが何を要求しているのか、何の助けを求めているのかを見抜いて、そのときどきに適切な処置

*

*

*